



「生きる」教育
Education for Living

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センターE.FORUM

「『生きる』教育」プロジェクト

単元「たいせつな ことと体」 指導案

※以下でご提案しているのは、一つの例です。先生方の目標や子どもたちの実態に合わせて、適宜、アレンジして実践していただければ幸いです。

※[]内の数字は、ウェブサイトに掲載しているファイルのナンバリングを示しています。

教科	生活科	学校段階・学年	小学校・1年
単元名	たいせつなことと体		
単元の時間数	全2時間		
単元目標			
・「安心」「安全」「清潔」について考え、自分で守る方法や守ってくれる人・場所の存在を理解する ・プライベートゾーンの約束を理解し、他者との適切な距離感について考えることができるようになる			
単元の指導の流れ			
時数	教師による指導	子どもの活動、反応例	教材・教具など
I	自分の体や心を大切にする方法を学ぼう ① <u>安全・安心について考える(ワーク)</u> ・制服を着た男女のイラスト →服装の乱れ・けがの放置・靴の履き方などの安全ではない部分を見つけ、対処法を考えるよう促す。 →男女の表情にも注目させ、目に見えない心の様子にも着目させる。不安に気づく視点やそれを「安心」に変える方法も対話の中から導く。 ② <u>清潔について考える(ワーク)</u> ・体操服を着た男女のイラスト →外からの汚れ(泥や食べかす)や体の中から出てくる汚れ(汗や排泄物)などにも気づけるよう促す。 →清潔を保つ方法の一例として、毎日お風呂に入ることを確認する。そのうえで、お風呂に入るために掲示物の男女の体操服や下着を外そうとし「恥ずかしい」という感情を児童から引き出す。 ③ <u>プライベートゾーンについて知る</u> ・プライベートゾーンの場所(水着で隠れる場所)と4つの約束を確認する	掲示物・イラストを見て「おかしい」と感じる点を伝えあう イラストの男女の気持ちを想像し、安心できないときの対処法を考える 清潔ではない部分を見つけ、対処法を考える 「恥ずかしい」という気持ちの大切さや、どうしてそう感じるか話し合う	授業用プリント[1-1] 安全・安心ではない男女(制服) パーツ:傘、木の棒、帽子、肩紐、靴[1-2] 想像した気持ちを書き込むためのピンクのふきだし[1-3] 清潔ではない男女(体操服) パーツ:汗、ハンカチ、ばんそうこう、ティッシュ、綺麗な体操服[1-2] パーツ:水着[1-2] ※着替えさせるときは、イラストの男女の下着が見えないよう、教師の身体で隠しながらパーツを入れ替える プライベートゾーンの約束[1-4]

			文字を書き込むための太マジック
2	<p>自分の体や心を守る方法を考えよう</p> <p>①プライベートゾーンと<u>いろいろなタッチ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライベートゾーンの4つの約束を復習 ・ハイタッチやキスなど「いろいろなタッチ」を用い、相手との距離感を考えさせる <p>②<u>親しい大人との距離感を考える</u></p> <p>「子どもたちとお兄さん」「お医者さんと 女兒」などイラストを用いて、親しい大人 との距離感を考えさせる</p> <p>→家族であってもプライベートゾーンの約 束は守ることを確認する(「お世話」や 「診察」は例外)</p> <p>→嫌な気持ちになった際は相手に伝えたり、 相談したりすることの大切さを伝える</p> <p>③<u>助けてもらえる人や場所を知る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに相談する人を想起させ、そ れが家族以外でもよいことを確認する 	<p>イラストに出てくる動物 が触れている場所や表 情を参考に、距離感の 良し悪しを判断する</p> <p>安心・安全・清潔を自分 で守ることの大切さと、 自分は守られるべき存 在であることを確認する</p>	<p>「いろいろなタッチ」授業用プリント [2-1]</p> <p>「いろいろなタッチ」掲示用カード [2-2]</p> <p>ペープサート(6種) [2-3]</p> <p>助けてもらえる人カード [2-4]</p> <p>助けてもらえる場所カード(*1) [2-5]</p>
留意点			
<p>・生活体験で身につけた児童それぞれの価値観から「おかしい」と思う部分を見つけ、その理由や対処方法を話し 合わせる。「安心」「安全」「清潔」の基準が著しく低い児童に対しても、クラス内での対話の中で、他者の持つ基準 との差に気づかせ、正しい対処法へと導く。</p> <p>・性的虐待に関して挙げられている事例でも、親しい人との距離感に関する子どもの価値観にズレがあることが多 く、違和感を抱いたとしても、それが性的虐待を受けているという判断に結びつかない場合がある。そのため、2時の 親しい人との距離感についても、クラス内での対話の中で気づきを促すという方法をとっている。性に関する適切な 距離感と、それが破られた場合の対処法を明確に伝えることが重要である。</p> <p>・(*1) 助けてもらえる場所の1つとして、校区内にある児童養護施設の写真も準備しておく。ここで、児童養護施設 を「みんなを守ってくれるところ」「誰でも行っていいところ」というポジティブなものとして扱うことにより、児童養護 施設に対する認識を新たにし、肯定的な感情を育むこともねらいの1つとする。これは、児童養護施設から通う子 どもたちにとって、児童養護施設から通っていることへの否定的な感情を軽減し、自己肯定感の育成に寄与することを 期待して行うものである。</p>			

(作成: 田野茜、西岡加名恵)